

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基づき、事業所理念を作っている。フロア内の目の付きやすい所に掲示をして実践につなげている。	法人の理念をもとに事業所の理念を職員と検討し、設定しています。また、理念を実践できるようユニット内に掲示し、毎年度の事業計画でも具体的な落とし込みを行っているほか、職員個人目標の設定・評価も行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止の観点から地域との交流は控えている。地域の海岸清掃には昨年に管理者が参加している。地域向けの広報誌を年6回発行して回覧している。	地域の海岸清掃に参加したり、広報誌を定期的に発行し地域に回覧し情報を発信しています。また、今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年では地域の祭りの際は屋台神輿に敷地内に入ってもらったり、保育園児や小学生がホームに来てくれるなど、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて取り組みの状況の報告を行い、グループホームや認知症を理解してもらえるように働きかけているが、新型コロナウイルス感染防止の観点から書面での報告とさせてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は新型コロナウイルス感染防止の観点から開催できず、書面での報告となっている。話し合いはできていない。	今年度は新型コロナウイルスの影響で書面開催が多くなっていますが、運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会長、民生委員、ご利用者代表、ご家族代表、民生委員、駐在署員、地域包括支援センター職員等から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議は新型コロナウイルス感染防止の観点から開催できず、書面での報告となっている。話し合いはできていない。	地域包括支援センター職員には運営推進会議等でもアドバイスを頂いているほか、制度等不明な点についても確認するなど、連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	複合施設での身体拘束についての研修に参加して、どのような行為が身体拘束にあたるのか、職員の意識統一を図っている。無断外出に注意の方は、所在、行動把握に努めている。	事業所で身体拘束についての研修を行い周知徹底をしているほか、身体拘束廃止委員会を定期的に開催しており、身体拘束をしないケアを実践しています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について研修に参加して、日々のケアで注意をして虐待防止に努めている。	身体拘束研修と同じく、事業所にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しているほか、職員の言葉遣いについても気付いた時に指導するなどし、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所の方針なども伝えて、ご家族の疑問点にも納得して頂けるような説明を行った上でご理解、ご協力を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、日頃から入居者との会話から意見、要望を聞く機会を作っている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングや個人面談を実施して、職員の意見や悩みを聞く機会を設けて、改善に繋げる努力をしている。	定期的に個人面談を行い、個人の要望や悩みを聞いています。人事異動の希望についても定期的に確認しているほか、日常の業務の中で職員から改善提案があれば、職員会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を活用している。また人材活性化システムにて各自の職場環境、条件等の意向を伺い、反映できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や事業所内で各種研修会を計画して、多くの職員が参加できるように努めている。外部への研修は管理者以外は参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の4グループホームで管理者会議を定期的に開催して、意見交換を実施している。また4グループホームで事例検討会を行い、サービスの質の向上に繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で本人の生活状況を把握し、本人、家族の希望を聞いている。その際には本人の立場も踏まえ、不安解消に繋がれるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	丁寧に希望や意向を伺い、サービスを提供に反映させている。細やかな報告、連絡により信頼関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、本人、家族の要望を聞き、可能な限りプランに取り入れ、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者間の関係性も考慮して、食席も適宜検討、変更している。トラブル回避のため、職員が間に入ることもある。馴染みの関係性を大切にしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、事業所広報のおたて通信を送付したり、近況報告を年2回送付して情報の共有を図っている。	事業所広報の「おたて通信」をご家族に送付しているほか、年に2回個別の近況報告もお送りする等、日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と外出、外食したり、家族の美容院へ毎回行かれる方もいる。馴染みの人や場所との関係を維持できるように援助している。	ご家族の協力も得て自宅や親戚宅へ出かけたり、行きつけの美容院に行かれるご利用者もおられます。また、今年度は新型コロナウイルスの影響で制限もありますが、ご家族に面会に来て頂くなど、今までの関係継続支援に努めています。	外出の際の記入して頂いている外出届の様式の日付の元号がまだ平成のままとなっていましたので、様式を見直すことを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性をふまえて同じ食席としたり、変更したり、みなさんで一緒に参加する体操や歌などでも、入居者間の関わり合いを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し、特養に入居されたケースがあるが複合施設にて玄関で家族にお会いした時には、ご様子を伺ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望や意向を把握して、ケアプランにも取り入れている。本人の意向確認が困難な方もいるが、本人の思いを考えて意向としている。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、ケアプランの検討に活かされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家での暮らしの情報をもとに、本人、家族にも確認したりして、可能な限り以前の生活が継続できるように支援している。	入居時にご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活暦や嗜好を確認しています。また、居室担当者により状態の変化時には、情報の見直しも行われています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックを行い、健康状態の把握に努めている。できることは行ってもらい、どこまでができるのかも把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議にて、ケアの現状の確認や方法について話し合っている。またケアプラン変更時には、家族、本人に意向確認を行い、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングは担当介護職員が毎月行っており、定期的にサービス担当者会議を実施し、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ケアプランの検討を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランの実施状況は、生活記録に記載して職員間で情報共有を図っている。また介護計画について月1回、モニタリングを行い、見直し時に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設にて状態によっては特養の設備を利用することも可能である。施設間で情報交換を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では、地域包括支援センターの職員や地域の方に参加して頂き、地域資源の開発に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は今までのかかりつけ医としている。緊急時や必要時は受診に付き添い、普段の様子も伝えている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、往診にも来ていただいています。受診の際は必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめ医師に渡すなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に相談や報告は適宜行っている。体調や状態によっては受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院された際には、家族や医療機関に普段の生活状況を提供し、退院前には医療機関に情報確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には施設としての方針を説明しており、対象の方が出られた場合、その時の健康状態に合わせ、家族と今後のあり方を相談して、家族や本人の望みが事業所としてどこまで可能かどうか、確認し合う場面を設けることとしている。	契約段階で事業所の「看取りに関する指針」をもとに管理者はホームの方針を伝えているほか、ご利用者の状態に合わせご家族と話し合いの場を設けています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、高齢者の体調変化と看取りについての勉強会をしたり、消防署の普通救命講習を年1回ずつ実施して、すべての職員が対応できるようにしている。	毎年、消防署職員より普通救命講習を受けているほか、事業所でも緊急時の対応について研修を行う等、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	複合施設で日中、夜間を想定した避難訓練を定期的に行い、水害時の2階への避難訓練も行っている。	水害や夜間の火災を想定した避難訓練や駆けつけ訓練を定期的に行なっているほか、地域の防災訓練にも参加し、災害時に適切な対応がとれるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人に関することは離れたところで、また小さな声で話すようにしている。認知症があっても思いやりのある丁寧な言葉かけに努めている。	事業所でも接遇研修を行い、言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように徹底されています。また、広報やブログへの写真の掲載についても契約の際に確認をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り希望を伺い、選択してもらえようような関わりを行っている。お誕生日には好みのメニューを伺い、提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お昼寝をしたくない方にはフロアで過ごしてもらったり、入浴も希望を伺った上で実施している。付き添える時には希望者には外への散歩も実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	うまく身だしなみを整えられない方もいるが、声をかけたり、選んで頂いたりして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前にテーブルを拭いてもらったり、一緒に盛りつけを行ったりしている。	ご利用者にもできる範囲で調理や後片付けも行ってもらっているほか、ご利用者と一緒に梅干しづくりをしたり、誕生日の方には好みに合わせてメニューを組むなどし、食事を楽しんで頂けるように取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養不足にならないように、バランスを考えたメニューとしている。食事量は個別に決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行って、口腔内の保清に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや習慣を把握して、失敗があってもトイレでの排泄を促している。	必要なご利用者の方には排泄チェックを行ない職員のさり気ない見守りや声かけで、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分と運動をすすめて予防に努めているが、下剤によるコントロールができていないかも確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は当日に伺い、順番も決めている。拒否されることもあるが、間隔があいている場合は無理せずに、後日にすすめることとしている。	ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。入浴を嫌がるご利用者に対しても、職員間で誘導の時間帯等を検討し、入浴を楽しんでいただけるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時には、話や訴えに傾聴してりして、安心して頂くことで安眠につなげている。お昼寝は寝たくない方はフロアに来て過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の管理、配薬を行い、服薬方法についても個別に決めて対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔されていたできる家事や塗り絵、午後は体操や好みの歌を歌い、やりがいや気分転換につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外の畑を見に行ったり、駐車場を一緒に歩いてもらったりしている。外出行事では季節を感じれる場所へ花を見に行ったりしている。	ご利用者と一緒に天候に合わせて散歩に出かけたり、季節に合わせてお花見やあじさい見学などの外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族も所持金の確認の上で、本人の希望でお金を所持されている方がいる。本人で自販機でジュースを買いに行かれ、付き添っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をかけたいときには、居室内の電話でかけてもらっている。うまく聞き取れない場合は職員が間に入り、お話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルには観葉植物や季節の花を花瓶にさして飾っている。また行事など撮った写真は飾り、見て頂けるようにしている。	リビングは併設する小規模多機能事業所と繋がっており、広々としており開放感があります。和室がありくつろげる雰囲気もあり、季節に合わせて作品も飾られ、季節感も感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには椅子やソファを置き、くつろげるスペースがあり、利用している。外の景色も眺められるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物を自宅から持ち込んでもらっている。また好みにより、本人の作った作品を飾ったりして、その人らしいお部屋作りに努めている。	居室にはタンスやテレビ、ラジオなど、使い慣れた物を自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動や作業ができるように、物や食席の配置にも工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				